



橋北中学校だより

令和6年3月4日(月)
第12号 文責:奥田
津市立橋北中学校

残りわずか・・・

3年生にとって、卒業まで登校するのが残り10日となった2月28日(水)、3年生を送る会「三送会」を行いました。卒業式に参加する在校生は2年生と1年生の代表であることから、3つの学年が一堂に会する機会はこれが最後となりました。

今年はコロナ禍で途切れかけた縦・横の関係をつなぎなおすことをテーマの一つとして、授業を始め、体育祭や文化祭の行事を行ってきました。その集大成となるのが三送会でもあります。全校も先生も一緒になって『唱』にあわせて、ダンスを踊りました。

これはそれぞれの学年が体育の授業で取り組んできていて、3年生が1番、2年生が2番にあわせてプロモーションビデオ(PV)を作成しました。そのPVを鑑賞した後、全員でのダンスとなりました。ダンスの授業となると、運動や表現することが苦手な人には決してハードルの低いものではありません。「できないこと」、「分からないこと」を学級やグループの中心に置いて、本校は学びを進めています。「できないこと」に対して引け目を感じるのではなく、それをみんなが認めながら学び合っていくのが橋北中の目指すところです。ダンスの授業では、はじめは消極的に踊っていた人も全身で表現し、仲間と距離を縮め、一人一人が主役となって授業は進んでいきました。

三送会での600人ダンスはこれまでの取り組みの集大成となりました。お互いの距離を縮め合っ、顔を見合わせ、ハイタッチをしたり、肩を組みあったり、みんな一体感を感じ、楽しいときを過ごすことができたのではないのでしょうか。1度の予定が、期せずしてアンコールがかかり、2度目を。これを仕掛けてくれた生徒会役員のみみんなも喜んでくれたことでしょう。

国際交流プロジェクト

今年度当初より準備を進めていました、台湾の正興國中学校とのオンラインによる交流活動を2月29日(木)に行いました。7月に参加者を募集し、15名の生徒が参加し、準備を進めてくれました。相手校との日程調整などでこの時期になってしまいましたが、卒業までにぜひ交流を行いたいと3年生を中心に7名のメンバーが代表で参加しました。

参加者はそれぞれの学校や地域のことを画像も使いながら英語で紹介し、その後、質問に答える形で会話を行いました。参加者からは「めっちゃ楽しかった」、「台湾に行ってみよう」、「(3年生なので)来年もやりたかった」という感想も聞かれ、心が豊かになる特別な時間を過ごすことができたようです。日頃の授業を大切にしながら興味を高めていくことが、こうした時間につながっていくのだとあらためて実感しました。学んだことを活かし、地域だけでなく海外にも一歩を踏み出し、より良き未来を創っていく人になってください。ちなみに一番盛り上がったのはアニメの話題でした。



学校評価アンケートについて

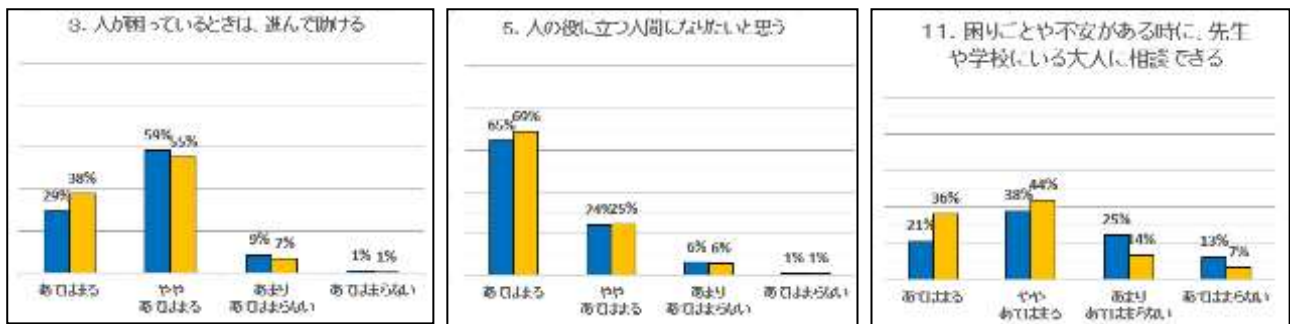
11月に行いました学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。今年度は質問内容を大きく変更し、4月に行われた全国学力・学習状況調査の生徒質問紙(以下、質問紙)の内容に合わせたものとなりました。そのことにより、質問紙での結果をもとに生徒の強みや課題を分析し、日々の授業や取り組みを見直すことができ、半年間の生徒の変容を確認することができました。また、2月22日に開催した第3回学校運営協議会において、アンケートをもとに行った学校自己評価について熟議を行いました。

学校だより7号でお伝えした、本校の気になる項目について、まとめましたのでご覧ください。

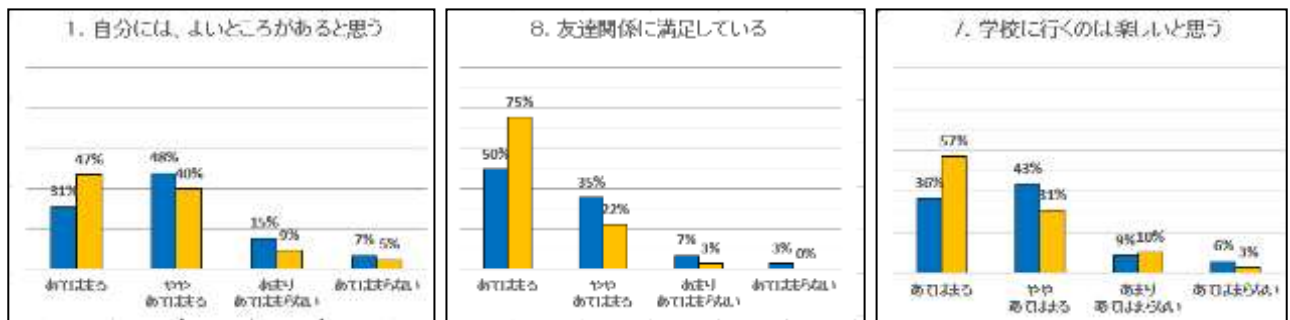
なお、学校評価アンケートの集計については本校ホームページ「生徒・保護者専用」に掲載いたしました。

生徒アンケート (3年生の4月から11月の変容に注目) ■…4月3年 ■…11月3年

4月の段階では新しいクラスになったばかりで、互いの様子をうかがっていた人間関係だったものが、日々の授業や行事の取り組みを通して、理解を深めていったと推測できます。行事を通して協力し合ったり助け合ったりすることはもちろんのこと、授業ではペア活動や班活動で相手の気持ちを思いやり、分らなさを共有し合ったりすることで以下の項目の上昇につながったと考えられます。



また、普段の教室がそうやって助け合える共感的な空間になるからこそ以下のような項目に良い影響を与えていると考えられます。



もちろん100%の生徒が満足しているわけではないので、今後の授業や活動でも一人ひとりに目を向けて取り組んでいくことが求められます。

保護者アンケート (保護者と生徒の回答を比較)

- 2. 子どもは、将来の夢や目標を持っている
- 3. 子どもは、人が困っているときは進んで助けている
- 5. 子どもは、人の役に立つ人間になりたいと思っている
- 6. 子どもは、学校に行くのが楽しいと思っている
- 7. 子どもは、友達関係に満足している

これらの項目は生徒の回答に対して、保護者の回答が10ポイント以上低くなっています。この結果から生徒は「こんなに頑張っているのに認めてもらえない」、保護者は「もっと頑張してほしい」と、それぞれに思っているのではないかと推測されます。この要因として「思春期による会話の減少」「家では学校での相談や不満を話すことが多い」「話をしたくなるような出来事が無い」などが考えられ、「8. 学校の様子について家庭で話し合っている」の質問からは、そもそも家庭であまり話さない人が約20%いることが分かります。これらの点をふまえて学校として取り組むべきことは、「保護者への学校公開と情報発信」であると考えます。学校行事への参加だけでなく、授業公開週間にもなるべく多くの方に来てもらえるよう実施回数や時期の見直しを検討していきます。また、学校だよりや学年通信、HP 等も活用しながら日々の授業や行事を通じた生徒の様子を公開していくことも一つの方法だと考えます。